

# 第 1 回

## 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議

平成27年5月19日

### 議事録

# 平成 27 年度 第 1 回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 議事録

会議体の名称	第 1 回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議	
事務局 (担当課)	島田市市長戦略部戦略推進課	
開催日時	平成 27 年 5 月 19 日 (火) 14:00～16:00	
開催場所	島田市役所会議棟大会議室	
議題	(1) 「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」の設置について (2) 島田市における「まち・ひと・しごと創生」の取組について (3) 静岡県の取組について (4) 島田市の将来人口推計について (5) 意見交換	
出席者	創生市民会議 構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島田市自治会連合会 大石会長</li> <li>・島田青年会議所 町・専務理事</li> <li>・お母さん業界新聞 静岡・島田版 杉本編集長</li> <li>・島田市小中学校PTA連絡協議会 荒波会長</li> <li>・NPOクロスメディア島田 大石理事長</li> <li>・島田商工会議所 原田会頭</li> <li>・島田市商工会 大塚会長</li> <li>・島田観光協会 松田事務局長 (代理出席)</li> <li>・島田市農業経営振興会 富永副会長</li> <li>・静岡県立島田高等学校 大井副校長 (代理出席)</li> <li>・島田市校長会 杉本・六合小学校長 (代理出席)</li> <li>・島田信用金庫 市川常務理事</li> <li>・島田・榛北地区労働者福祉協議会 片山会長</li> <li>・島田公共職業安定所 中村所長</li> <li>・島田市 染谷市長</li> </ul>
	オブザーバー	静岡県中部地域政策局 掛澤局長
	事務局	島田市市長戦略部戦略推進課 森下課長
	市関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高木副市長</li> <li>・濱田教育長</li> <li>・牛尾市長戦略部長</li> </ul>

配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議席次表</li> <li>● 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議構成員</li> <li>● (資料 1) 「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」の設置について</li> <li>● (資料 2) 島田市における「まち・ひと・しごと創生」の取組について</li> <li>● (資料 3) 静岡県の取組について</li> <li>● (資料 4) 島田市の人口動向分析と将来推計シミュレーション</li> <li>● (資料 5) 島田市の将来人口推計 試算結果</li> <li>● (資料 6) 島田市の地区別将来人口推計 試算</li> <li>● (資料 7) 「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」の今後の日程について</li> <li>● (資料 8) まち・ひと・しごと創生法の概要</li> </ul>
------	---

- |  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>● (資料9) 参考資料1 わが国の総人口の長期的推移</li><li>● まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」パンフレット</li></ul> |
|--|---|

## 【議事録】

<開会の挨拶>

○市長戦略部長 本日はご出席を賜りありがとうございます。本日の司会の島田市市長戦略部の牛尾です。よろしくお願ひします。定刻となりましたので、ただ今から、「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を開催させていただきます。それでは、はじめに染谷絹代島田市市長から、ご挨拶を申し上げます。

○染谷市長 みなさんこんにちは。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日から、島田市まち・ひと・しごと創生市民会議を開催することになりました。一堂に会していただき、御礼申し上げます。

今回、市として大変重要なテーマである地方創生について集まっていただきました。地方創生とは端的に言うと、地方に仕事を創って東京に集まりすぎた人口を地方に戻し、子供を増やして、地方に元気を取り戻す政策を計画し、実行することです。

地方創生の話は、昨年5月に地方創生会議が896の消滅可能性都市を報道したことで、急激に話が持ち上がり、全国の市や町に総合戦略を作れということになりました。

私の考えを申し上げれば、島田市は総合戦略をしっかりと作り続けるが、一方で、地方にのみ地方創生を押し付けるのではなく、30過ぎて結婚したら子供3人を産むのが大変である、教育にお金がかかるというような働き方のシステムに関して国に改善を進めていただく必要があります。国、県、市がやることの棲み分けがないままに、地方に押し付けられていると感じます。

しかし、島田市も人口減少時代に突入しています。国勢調査によると、資料にあるとおり、1995年がピークで10万3,490人だったが、このままでいくと、現在約10万人の島田市の人口は2060年には6万人レベルまで減ることが推定されています。この数字を聞き大きな危機感を持たずにはられないのが現状です。

このような急激な人口減少社会にあっては、労働力人口の減少、商圈の縮小が引き起こされ、地方の経済規模縮小が地域サービスの低下を招く大きな問題であるので、このままにはしておけません。

私は、島田市が将来にわたり活力を維持するためには、この5年先を見据えて、5年間の島田市の具体的行動・ビジョンを示す必要があると思っています。それが総合戦略です。皆様のご意見をいただきたいところです。

今まで、行政は理論を立て政策を行ってきたが、成果を検証することが不十分でした。これからの行政は、成果の検証や改善を求められます。実行力、成果目標、評価が求められる時代の中で、地域で考え、地域が実行することは何かを、5年を見据え、総合戦略に盛り込んでいきたいと思っています。

これまで継承された産業や文化が次世代に継承され、ふるさと島田を守り、自慢、誇りに思うまちを作っていくことをやり遂げなければなりません。本日、皆様が一堂に会した会議が島田市における地方創生の第一歩で、ここから始まります。目指すべき将来のベクトルを合わせ、オール島田で取り組みたいと思っています。忌憚のない意見を聞かせていただきますよう、お力添

えをお願いします。

- 市長戦略部長 (会議出席名簿の案内)  
議長を染谷市長にお願いしたい。

< 議事 (1) ~ (4) >

- 染谷市長 依頼のあった議長を務めさせていただきます。  
それでは、議題 (1) 「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」の設置について、事務局から説明をお願いします。

- 事務局 **資料1**の説明  
(スケジュールの説明) 併せて**資料7**を参照のこと。  
既にアンケート調査に取り掛かっています。市民からの提案募集も広報5月号で案内しています。  
10月末を目途に人口ビジョン、総合戦略策定を目指しています。来年度予算への反映、施策は早く取り掛かる方が効果が出るため、また国の要件による追加交付を念頭に10月末を目途としています。

- 染谷市長 (2) 島田市における「まち・ひと・しごと創生」の取組について、事務局から説明をお願いします。

- 事務局 **資料2**の説明  
関連資料の説明。**国の青いパンフ**、**資料8**(法律の概要と人口ビジョンの基礎資料集計)は次回の参考に活用を。**資料9**は長い期間で見た人口推移の資料です。

- 染谷市長 続いて、(3) 静岡県取組について、オブザーバー参加の静岡県中部地域政策局長様に説明をお願いします。

- オブザーバー 中部地域政策局の掛澤です。地方創生について皆様のご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。  
国では、昨年12月に、まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」と「総合戦略」を閣議決定し、資料8、資料9を基に、日本として2060年に人口1億人を確保するという長期目標を立て、全国自治体に人口ビジョンと総合戦略の策定を求めています。

以下、**資料3**の説明

(7ページの説明) 2020年に合計特殊出生率が2.0に回復し、かつ社会変動がないと仮定した場合の県の推計では、志太榛原・中東遠地域の人口減少は、社人研推計に比べ約8万8,000人抑えられると考えています。

(8ページの説明) 本地域の現状認識。本地域の第1次産業の総生産は2位西部地域の2倍以上ある。また、陸海空の交通ネットワークの結節点となっています。

(9、10ページの説明) 本地域における地方創生の視点は3点。1つ目は、茶園や里山の豊かな自然空間と都市的空間が調和したガーデンシティの形成推進。2つ目は、食材、茶、花などを活用した6次産業の拡大や輸送用機械器具製造業のノウハウを活かした成長産業分野への進出。3つ目は、交通ネットワークと多彩な地域資源を活用した観光・文化・スポーツなどの交流促進です。

(11ページ スケジュールの説明) 県民会議や県民アイデア募集など、様々な皆様からのご意見を賜りながら、本県独自の地方人口ビジョンと地方版総合戦略を、本年秋頃を目途に取りまとめたいと考えています。

○染谷市長 (4) 島田市の将来人口推計について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 今回、人口ビジョン検討に際して、資料4、5、6の3つを用意しました。資料4は、これまでの人口動向と推計。数字に関してはこれが基本となります。資料5は、人口推移の推計に関するシミュレーションパターンの資料です。資料6は、地域ごとの人口推移の2つのパターンを出しました。これらを人口ビジョンの参考にしていただきたいと思います。また、先ほど紹介した資料8も参考となります。

資料説明に入る前に申し上げますと、人口は大きな指標であり、人口減少期に入っています。合計特殊出生率が大きな指標で大きなバロメーターです。2.07まで上がらないと、人口は下げ止まりません。また、2.07に上がっていったとしても、しばらくの間は人口減少が続くと見込まれるので、減少の中で社会制度を考える必要があります。また、早く取り組むほど効果が出るということがあります。そうした観点から、資料を説明させていただきます。

以下、資料4、資料5、資料6の説明

#### < (5) 意見交換 >

○染谷市長 これから意見交換に入りたい。今日の説明では、地域ごとの試算も出ており、ショッキングもあったと思うが、これに関する感想でなくても構わないのでどうぞ。

○A構成員 市と県の連携を取って進めていかなければならないという前提なのか。県の考えも頭に入っているのか。教えて欲しい。

○オブザーバー 県内5圏域の地域会議に市町にも入ってもらっている。細かいところまでは整合を図れないが、大まかな方向性についてはかけ離れないよう、連携して進めていく。

○染谷市長 静岡県から唯一、全国市長会のまち・ひと・しごと創生対策特別委員会にも出席しているが、直ちに2.0は困難な数字。それを前提としていくのはいかなものかと感じている。

○オブザーバー 2.0というのはあくまでも目標であり、それに向かって頑張るということで理解いただきたい。

○染谷市長 目標にすることに異論はないが、数値を前提にした人口ビジョンを作るのは難しい。2.0とすると数字は大きく変わる。先ほど説明があったが、今数字が増えたとしても、2060年までは下げ止まらないことを前提としたら、人口が減っていく社会を前提とした計画も作らなければならない。Wスタンダードじゃないけれども、その2つ作ることもご理解いただきたい。合計特殊出生率が上がれば、すぐに人口が戻る・減らないということではないということを押さえていただきたい。

○B構成員 国も県も今大騒ぎしているが、最初から分かっていたこと。昭和22～23年の団塊世代をピークに下がり続けている。出生率を今回復しても挽回するには、70～100年かかる。人口が減る社会の中で仕組みを作る。地方は人口の奪い合いになるが、広域行政含めて地方生き残り行政をやっていただきたい。合わせて、出生率向上、

生みやすい環境を作るなどを行う。これは、どちらが先かという問題ではなく、両方やり、相乗効果を生まなければならない。行政は発信をして我々が危機感を持つきっかけにして欲しい。

- C 構成員 会議設置とスケジュールがあるが、国の予算措置があるのか？
- 事務局 国の平成 26 年度補正予算で 2,700 億円立てられたが、第一回基礎交付として 2,400 億円交付され、市では 9 つの事業に使っている。残り 300 億円あるが、市の 9 月議会に提出し、議決いただければ、それを使った事業が下半期にできると考えている。平成 28 年以降の予算はまだ示されていない。来月示される予定。骨太の方針や予算概算要求などで把握する。
- 染谷市長 来年は予算は付くが、その結果うまくいったところ、いかないところを見て次の段階で予算を付けていく。国が 5 年間ずっと面倒を見るのは難しいと思う。それぐらいの危機感を持つ必要がある。
- 事務局 資料 2 をご覧ください。「用語解説」の政策 5 原則で「(1) 自立性」がうたわれています。基本的には、いつまでも国からの交付金があると思うな、と言われてます。自主財源で回っていく姿を目指すのが基本的なことです。「(5) 結果重視」を念頭に施策を考えています。
- C 構成員 国は結果を出す自治体に予算を出すということか。我々は NPO として地域の魅力向上に取り組んでいるが、資料を見ても、少子化と地方創生は違う取り組みと感ずる。少子化は日本全体の取り組みであり、その中に地方創生がある。分けて考えるのが必要と考えている。地方創生は人口流出・流入、仕事を考えるのが必要。仕事を増やすのは難しく、5～6 年はかかるので、第一歩として、流出させないのが大事。アンケートを取っているとのことだが、中高生の声を聞きたい。出ていかないまちを作りたい。
- D 構成員 人口移動は、仕事が必要。都会で働くのと地方で働くのとイメージが違う。若い人は都会で働きたいという憧れがある。基本的にはしっかりした企業が魅力のある職種で人を集める必要がある。農業離れもあるので、新しい産業の誘致や、光ファイバーの設置などで田舎でも働けるような新しい仕事など、島田で都会の仕事ができるとよい。  
もう一つ、空き家を活用するなど、女性が働きながら子供を育てられる環境を行政がうまくリード・支援して欲しい。そういうことがあれば、田舎の会社に勤めてよかったと思ってもえらえる。仕事があれば、人が集まる。女性に働いてもらえれば、男も集まってもらえる。
- 染谷市長 重要な視点の指摘だと感じる。雇用と働きながらの子育てについてご意見をお聞きしたいです。
- E 構成員 お母さん達は、子供との時間より仕事を優先してしまうのは、会社・職場の雰囲気などが原因。その辺が変わると良い。「働きながら子育てをする」のではなく、「子育てしながら働く」という方向があっても良いと思う。それを進める事業を起こした。「そもそも働く意味とは何か」から考えている。家族の幸せのため家を建てる。家のローン返済のため夫婦共働きしている。それで子供との時間が無くなる。幸せな家なのか？家族の幸せと逆転していないか。  
あと、結婚しなくても子供を産める環境が欲しい。全国で一斉に地方創生に取り組む中で、幸福度をベースにして、島田市ならではの特徴が必要。ベースは子供にどれだけ関わってあげられるかなので、親の働き方、地域の繋が

りが大事だと感じている。

- 染谷市長 2002 年リオ会議でのウルグアイのムヒカ大統領のスピーチを思い出した。「環境問題よりも何よりも、我々の生き方、働く意味が問われている。何のために生まれてきたのか。良い暮らしをするために働き続けるのが良いことか。あるいは、働く時間を割いても家族との時間など幸福を求める方が、価値が高いのではないか。しかし、世の中が経済最優先のシステムになっている。」と指摘し、大きな反響を呼んだ。ネットで「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」で検索をしていただければ、出てくると思う。
- F 構成員 女性の活躍は大事。人口減少問題に関しては、働き方の問題がある。「子育てしながら仕事する」ことがあってもよい。従来型のフルタイムの正社員雇用の働き方を求めている女性は正社員で働けなくなる。これを変えていかなければ、女性の良いキャリアも活かせない。短時間勤務の正社員化をするための助成金などもある。発想を変えていって、地域限定型、短時間勤務型などの正社員や、子育てや地域活動にも参加できる住みやすい社会システム作りが大事だと思う。「働き方改革」を地方創生で進めてもらいたい。
- 空港があり中国人がたくさん利用するが、島田は通り過ぎていくのみ。それを防ぐには、例えば、空港の近くに大型量販店をまとめて設置して、秋葉原や他の地域に行かなくても購入してもらって、そこでお金を落としてもらう。買うだけだと金額の競争になってしまうので、帰国するまで荷物の一時預かりや国際宅急便等の付加価値をつけていけば、生産性の高い流通のまちができ、仕事が増えていくと思う。
- また、介護の人手不足なども問題。静岡の有効求人倍率は1を超えているが、それは介護が支えている。製造業の求人はリーマンショック前の7割程度。介護施設の需要は増えていく。介護施設誘致をすると、高齢者が増えるだけでなく、介護するスタッフなど若い人も増える。しかし、付加価値が必要。大都市では、高級介護保険施設のスタッフの給与が上がっている。国内需要だけの発想ではなく、世界中の人がここで介護を受けたいというようなことも必要。仕事を作ることは、国内だけでなく、交通網も整っている地の利を活かして、海外も見た広い視野で産業振興を考えたいほうがよい。
- 染谷市長 良い意見がたくさん出てありがたい。アジアの人は、病気になったら日本に来ると聞いたことがある。病気になったら医者にかかれる介護施設など付加価値を付ける。また、家族で来日した方向けの宿泊施設もあると良いかもしれない。
- G 構成員 他県出身者として、気候の温暖性や年中働ける、遊べる、災害の影響が殆どないなど、静岡のすばらしさがある。企業を確保することより、一生住むと考えると、他人に自慢できる地域の魅力が一番大事。地域の人にも気付くことが必要。
- 染谷市長 地方戦略が絵にかいた餅にならないように、市民一人ひとりの心まで届き、実践されていく必要がある。会議だけでなく、地域に出かけ、市の考え方を伝えていかなければならないと思った。島田市は素晴らしいところだが、価値を外から指摘され、初めて自信になる。外に発信することが市民の自信に繋がると思う。
- H 構成員 農業者数の減少と人口の減少は比例していると思う。小学生の時にはクラスのおよそ8割が農家だったが、現在2軒しか残っていない。それだけ一気に減少し

ている。最近では生活ができず、お茶以外の農業をやっていかなければならない。牧之原台地は良い場所なので、お茶のままではなく、改革も必要だと思う。農地を守るためには農地法も大事だが、今のままでもダメ。特区を作って産業を作らないと、人も増えないし働く場所も作れないと思う。お茶農家として、お茶が足かせとなっていると感じている。

○染谷市長 お茶の大変さは回ってみても思うが、その中でも元気のある所と、そうでない所の差が広がっているとの印象も持っている。

○I 構成員 駅前に観光案内所があるが、島田駅前の整備で良い感じになった。自分も3人子供がいて、そのうちの1人の娘が育休中だが、育児と仕事の両立が難しい部分がまだまだある。小さな事業所では、女性職員の結婚や労働環境などの待遇は周知されていない。もっと周知してほしい。島田市へ来ていただいた人に住んでみたいという良いイメージを持ってもらいたい。もう一つは、結婚しなくても子供は欲しい女性はいる。外国では事実婚も多いと聞くが、結婚しない出産や事実婚も受け入れることも取り組みの中に入れて欲しい。

○染谷市長 フランスは、事実婚や婚外子も差別を無くして出生率を上げた。

○J 構成員 中小企業はお金がない。補助金が直接の影響が一番大きい。魅力も重要だが、お金がネックになっている。

○染谷市長 島田市は地方都市先行型で、男性側、企業にも1か月支給する男性の育児休暇取得の補助金もある。この辺の周知もしていかなければならない。しかし、補助金は一方で麻薬的なところもあり、自助努力を削ぐという難しい課題もある。農業にも言える。

○K 構成員 今回の資料を見て、2060年には島田市の人口が、ここまで減ることを初めて知った。先日、市P連の総会があり、どこの小中学校でも子供の数が減っていると聞いた。  
皆さんに聞くと、子供は2人くらいで十分という。その理由は、子供を産むと育てなければならない。そして収入を得て生活しなければならないので、そのことが頭にあり、子供を産むことを我慢することがあると感じた。お父さん、お母さんに、そのような不安があると、出生率は増えない。子供を産めば「こんなに協力をしてもらえる」と思えるような、補助の周知ができれば、安心して子供を増やせると思う。安心して、家族が増やせる状況が作れば出生率が上がると思う。これから、会議を重ねるうちに良い意見が出ることを期待している。

○染谷市長 たくさん子供を産むメリットを伝えなければならない。安心して子供を産める社会は、市が単独で作ることだけでは出来ないところもある。国のシステムが大きい。そういう声も国に伝えながら政策を作っていきたい。

○L 構成員 話を聞いていて、人口ビジョンを考えるより、戦略を考え、ビジョンを後から付けてもよいのではないかと感じている。少子高齢化はずっと前から話があり、日本も世界の国々も生涯現役、生涯教育に向けて対策をずっとやってきている。これまでの取り組みの検証が必要。今までやってきた事の反省をまずやるべき事ではないかと思う。  
小1プロブレム、中1ギャップ、高1クライシスという言葉があり、子供達は苦しんでいる。原因は大人達にあることをまず反省・検証しないと、安心して子育てにならない。幼児教育がいかに大事か。自ら育とうとする子供達を育てようということが重要。大人がこうなって欲しい姿を、子どもに押

し付けるのではなく、大人自身が示せばよい。まず反省して、より良いもの、アイデアを出し合うことが良い結果を生むと感じた。

- 染谷市長 これまでの検証、その中から良いものを繋げていくことは良く分かった。ただ始めるのではなく、精査して始めなければスタートできないということだと思う。
- M構成員 従業員約 500 名で、そのうちパートさんが 50～60 名である。島田市内在住者が約半数を占める。女性が 4 割で、既婚者は 2～3 割強。昔と違って今は子供が出来ても勤める状況になっている。産休は 1 年。1 年経ったら復帰して子育てしながら働ける。時短を活用する女性もいる。  
7 月復帰予定の他市に住んでいる女性社員がいるが、保育園が見つからず復帰できない。見つからなければ仕事を辞めなければいけない。1 歳児待機児童が多い。保育園施設はあるが、保母さんが不足しているため待機となる。重労働、責任の割に保母さんの給与が手取り 13～4 万で安い、なり手がない。保母さんの給与を上げるしかない。その辺も何らかの支援が必要。
- 島田市担当者 本市では待機児童 11 名、昨年 4 名で増加傾向です。
- M構成員 今、会社同士の交流を進めており、懇親会が婚活になる。市内の他事業者を知らないことも多いので、こういう（交流）機会も増やしていったら良いのではないか。
- N構成員 小学生は地域が大好き。この子供が成長して都会で働きたくなる変化は何なのかを見ていきたい。外に出て行っても、自然や安心して住める住居、教育環境などによって、自分が育ったようにここで子育てしたいと思うと、戻ることもあるのかな、と子供を見て思った。  
働くお母さんのための保育園の充実も必要だが、全員外で働くと子供は寂しい。夕飯は一緒に食べる生活設計が重要。女性だけでなく、男性でも祖父祖母でもよいが、こういったことを大事にした政策を考えてもらわないと、子供たちの寂しさは解消されない。
- 染谷市長 その通りだと思う。
- 教育長 市の各学校を回ると、地域人材の活用や登下校見守り、農業体験など、子供が地域に支えられていると思う。地域に支えられているので安心して暮らしていると思う。一方、子供に夢や希望を与えるのが教育。可能性を伸ばして羽ばたく子供を育てることと、地域と結びつく子供を育てるという、若干相反する部分があり、難しいと感じている。
- 副市長 4 月 1 日より現職である。本日は地元で地に足がついた議論だと思う。2 回目、3 回目も具体的な意見を交わしながら、良いものを作りたいと思う。
- 染谷市長 そろそろ時間ではあるが、他にどうでしょうか。
- B 構成員 少子高齢化が問題だが、少子化だけでなく、高齢者をいかに活かすかを議論に加えて欲しい。それによって教育の問題も解決できるのではないか。今ある空き家も活用しながら創生会議の活力の議論に加えていただきたい。
- M構成員 静岡空港や東名インターが 2 つもあり、良い環境にあるので、この辺のところをうまく活性化に使えないか。

- 染谷市長 多くの方からご意見をいただきました。今や元気なお年寄りがお年寄りを支援する、子育て中のママさんが支援しあう時代。我々が先を見る目を持って議論していきたい。よろしくお願いいたします。  
事務局は、皆さんの意見を踏まえて、次回の準備をして欲しい。
- 市長戦略部長 多くのご意見ありがとうございました。以上を持ち本日の議事を全て終了とします。事務局から次回開催の案内をさせていただきます。
- 事務局 資料1、資料7 をご覧ください。次回は7月16日（木）2時から、本庁舎4階の第3会議室で開催。内容は、人口ビジョンの案と、総合戦略の骨子のご意見をいただきたいと思います。その間事務局は、アンケートの集計等の準備をする予定です。資料は予め配布するようにしたいと思います。
- 市長戦略部長 本日はありがとうございました。

以上